書く⑨

□ 1 資本主義では弱小企業は**トウタ**される。（不適当なものを排除すること）
□ 2 大きく**ヘンボウ**を遂げた故郷に驚く。（姿をかえること）
□ 3 家族ぐるみで**コンイ**にしている。（親しくつきあっているさま）
□ 4 前回の**ハシャ**を破って優勝する。（競技などで優勝した人やチーム）
□ 5 **キョウベン**を執るようになって二十年だ。（きょうしの持つむち）
□ 6 急な出来事に**ボウゼン**と立ちすくんだ。（あっけにとられるさま）
□ 7 家を改築して**ショサイ**を作る。（本を読んだりかきものをしたりする部屋）
□ 8 仕事の**カンゲキ**を縫って美術館に行く。（すきま）
□ 9 実効のない**ケイガイカ**した法律。（かたちばかりのものになること）
□ 10 **カレン**な花が描かれた水彩画。（かわいらしいさま）
□ 11 **ザンシン**なファッションを着こなす。（際立ってあたらしいこと）
□ 12 兄はみんなの**ショウケイ**の的だ。（あこがれること）
□ 13 腕の傷が**チユ**する。（病気や傷がなおること）
□ 14 弟の死を嘆く大伯皇女の名高い**バンカ**。（人の死を悲しみ嘆くうた）

淘汰
変貌
懇意
覇者
教鞭
呆然
書斎
間隙
形骸化
可憐
斬新
憧憬
治癒
挽歌

「陶酔」の「陶」と混同しないように
「貌」には「顔かたちや姿」という意味がある
「懇」―訓ねんご(ろ)
「武力で天下を征服した人」という意味もある
「教鞭を執る」は「生徒に学業を授ける」
「茫然」とも書く
「斎」には「物忌みや勉強のためにこもる部屋」という意味がある
「隙」には「すきま」「ひま」という意味がある
「形骸」には「精神を別にした体」という意味がある
「憐憫」は「あわれむこと」
「斬」には「刃物で切る」という意味がある
「ドウケイ」とも読む
「癒」―訓い(える)
「相聞歌」は「恋歌」のこと

□ 15 理不尽な裁定が将来に**カコン**を残した。（災いの起こるもと）
□ 16 **ドンヨク**に知識を吸収する。（非常によくぶかいさま）
□ 17 茶人の端正な**キョソ**に見とれる。（立ち居ふるまい）
□ 18 祖母は**ジュウトク**な状態から脱した。（病状が著しくおもいさま）
□ 19 背任により**チョウカイ**免職された。（不正な行為に対して制裁を加えること）
□ 20 爽やかな朝日の中で**カクセイ**する。（目をさますこと）
□ 21 **ユウギ**に興ずる子ども。（あそびたわむれること）
□ 22 緊張のために気持ちが**イシュク**する。（ちぢこまること）
□ 23 **セイチ**な細工が施された宝石箱。（細かい点まで注意が行き届いているさま）
□ 24 **ヨクド**に恵まれた実り豊かな国。（作物がよく育つ肥えたつち）
□ 25 収入の**タカ**で人を評価してはならない。（おおいことと少ないこと）
□ 26 遺産をめぐる**ミニク**い争い。（見苦しい）
□ 27 投手で四番の彼はチームの**カナメ**だ。（最も大切な部分）
□ 28 シャツのほころびを**ツクロ**う。（壊れたものや破れたものを直す）
□ 29 絶滅の危機に**ヒン**する種は少なくない。（ある大きな事態が迫る）
□ 30 落選した候補を**ナグサ**める。（いたわる）

禍根
貪欲
挙措
重篤
懲戒
覚醒
遊戯
萎縮
精緻
沃土
多寡
醜
要
繕
瀬
慰

「禍」には「思いがけない災い」という意味がある
「貪」―訓むさぼ(る)
類「挙止」「挙動」
「危篤」は「生命が危ういこと」
「懲」―訓こ(らしめる)
「戒」―訓いまし(める)
「迷いからさめる」という意味もある
「戯」―訓たわむ(れる)
「萎」―訓な(える)
「緻」には「こまかい」という意味がある
「肥沃」は「地質に恵まれ作物がよくできること」
「寡聞」は「見聞が狭いこと」を謙遜して言う言葉
音シュウ「醜態」など
音ヨウ「主要」など
「その場を繕う」は「うまくとりなす」
「瀬死」は「今にも死にそうなこと」
音イ「慰労」など

□1 **ジチョウ**的な笑いを浮かべる。（じぶんでじぶんをあざわらうこと）
□2 誰からも愛される兄に**シット**する。（うらやみねたむこと）
□3 現代社会では情報が**ハンラン**している。（ものがあふれるほど出まわること）
□4 麻薬の**ボクメツ**運動に取り組む。
□5 飢饉（ききん）により蓄えていた米が**フッテイ**する。（うちほろぼすこと）（すっかりなくなること）
□6 表面が**ハクリ**している古い仏画を拝む。（はがれはなれること）
□7 官僚の言葉は**シンピョウ**性に欠ける。（しんらいすること）
□8 戸籍**トウホン**を確認する。（げんぼんを写した文書）
□9 高地では**フットウ**する温度が低くなる。（煮え立つこと）
□10 劣勢に立つ兵士の士気を**コスイ**する。（勢いをつけはげますこと）
□11 偉人を**ケンショウ**する碑を建てる。（功績などを世間に知らせること）
□12 よき**ハンリョ**を得て、幸せに暮らす。（配偶者）
□13 野生の動物は**キュウカク**が優れている。（においに対するかんかく）
□14 雑念をはらい、**メイソウ**にふける。（目を閉じて静かに考えること）

□15 **ズサン**な計画が成功するはずがない。（いい加減なさま）
□16 両者における実力の**ケンカク**が気がかりだ。（かけはなれていること）
□17 焼け跡の**ザンガイ**から手帳が発見される。（焼けたり壊れたりしてのこっているもの）
□18 ビルの屋上から街並みを**チョウカン**する。（高い場所から見おろすこと）
□19 名人の芸を十分に**タンノウ**した。（十分に満足すること）
□20 **ゼイタク**な暮らしは長くは続かない。（必要以上に金をかけるさま）
□21 頭脳**メイセキ**な人物。（筋道がはっきりとおっているさま）
□22 裏切り者を**ブベツ**の目で見る。（人をばかにして軽く見ること）
□23 純真**ムク**な幼子の笑顔に癒やされる。（けがれのないさま）
□24 傷口が**カノウ**する。（傷などがうむこと）
□25 インフルエンザが**マンエン**する。（はびこること）
□26 **カセ**ぐに追いつく貧乏なし。（精を出して働く）
□27 国王とは国を**ス**べる者のことである。（支配する）
□28 最年少の受賞者として一躍名を**ハ**せる。（広く世間に知らせる）
□29 用事で鹿児島に**オモム**く。（向かっていく）
□30 **コトワザ**には民衆の知恵が凝結している。（古くから言いならわされてきた言葉）

自 嫉 氾 撲 払 剝 信 謄 沸 鼓 顕 嗅 瞑
朝 妬 濫 滅 底 離 憑 本 騰 吹 彰 覚 想

「朝」―訓あざけ(る)
「嫉」「妬」ともに「ねたむ」という意味がある
「濫」には「あふれる」「みだれる」という意味がある
「撲」には「うつ、たたく」という意味がある
「底」を払う」は「すべてを出しつくす」という意味
「剝奪」は「はがしうばうこと」
「信憑性」は「信用できる度合い」
「謄」には「紙を原本の上にのせて写す」という意味がある
「議論が沸騰する」は「議論が激しくさかんになる」
類「鼓舞」
「顕」「彰」ともに「あきらかにする」という意味がある
「侶」には「肩を並べる仲間」という意味がある
「五感」は「視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚」のこと
「瞑目」は「目を閉じること」「安らかに死ぬこと」

杜 懸 残 鳥 堪 贅 明 侮 無 化 蔓 稼 統 馳 赴 諺
撰 隔 骸 瞰 能 沢 晰 蔑 垢 膿 延

杜撰（トセン）の作った詩が作詩の規則に合わなかったという故事から
「隔」―訓へだ(たる)
「骸」には「死体」という意味もある
類「俯瞰（フカン）」
「語学に堪能な人」は「語学に秀でた人」
「贅沢（ゼイタク）三昧（ザンマイ）」は「贅沢を思うままにすること」
「明晰」とも書く
「蔑視（ベッシ）」は「みさげること」
「金無垢（キンムク）」は「純金」のこと
「膿」には「うみ」という意味がある
「蔓」には「伸び広がる」という意味がある
音カ「稼業（カギョウ）」は「生活費を得るための仕事」
音トウ「統制（トウセイ）」など
「思いを馳せる」は「遠くはなれているもののことを思う」
音フ「赴任（フニン）」など
音ゲン